

国保水俣市立総合医療センター が担う役割について

令和5年8月

国保水俣市立総合医療センター

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

ビジョン

地域の中核病院として、急性期医療を中心に高度で安全な医療を提供するとともに、経営的にも自立した、患者に選ばれる病院を目指します。

病院理念

- ・ 患者中心の医療
- ・ 安全で高度な医療
- ・ 地域との連携
- ・ 環境保全
- ・ 健全経営

診療実績（R4年度実績）

許可病床数	361床（一般357床 感染4床）※56床休床中で305床稼働		
入院基本料	4対1看護（ハイケアユニット）、10対1看護 13対1看護（地域包括ケア）、15対1看護（回復リハ）		
平均入院患者数	225人/日	平均在院日数	17.1日
平均外来患者数	664人/日		

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

全職員数 **644名** (R5.4.1現在)

正職員数 **417名**

医師	42名	視能訓練士	1名
歯科医師	2名	管理栄養士	9名
看護師	251名	臨床工学技士	6名
准看護師	0名	医療ケースワーカー	6名
臨床検査技師	20名	歯科衛生士	1名
放射線技師	14名	事務職員 (ポイラ技士含む)	22名
薬剤師	13名		
理学療法士	17名		
作業療法士	8名		
言語療法士	5名	計	417名

会計年度任用職員数 **227名**

医師・歯科医師	3名	医療クラーク 健診クラーク	8名 6名
研修医	4名	管理栄養士 栄養士	1名 15名
看護師 助産師	24名 1名	放射線技師	1名
准看護師	11名	臨床検査技師	0名
看護助手	37名	保育士	5名
事務補助	52名	介護福祉士	4名
労務補助	53名	ポイラ技士	1名
歯科衛生士	1名	計	227名

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

当院の特徴

- 4 機能のうち急性期機能が中心（R4年度病床機能報告の報告内容）
 - 高度急性期 **10床**（4対1看護）
 - 急性期 **252床**（10対1看護）
 - 回復期 **95床**（地域包括ケア50床、回復期リハ45床）

主な指定関係

地域医療支援病院
救急告示病院
災害拠点病院
DMAT指定病院、
県がん診療拠点病院
第二種感染症指定医療機関
基幹型臨床研修指定病院

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

当院が担う政策医療（5疾病5事業）

5疾病のうち4疾病を担っている

- (1)がん・・・・・・・・県指定がん診療拠点病院
- (2)脳卒中・・・・・・・・急性期と回復期を担う診療拠点病院
- (3)急性心筋梗塞・・急性期を担う診療拠点病院
- (4)糖尿病・・・・・・・・糖尿病教育認定施設
- (5)精神疾患・・・・・・・・該当なし

5事業のうち5事業を担っている

- (1)救急医療・・・・・・・・二次救急医療
- (2)災害医療・・・・・・・・災害拠点病院、DMAT指定病院
- (3)へき地医療・・・・・・・・久木野診療所（へき地診療所）を運営
- (4)周産期医療・・・・・・・・地域周産期中核病院（新生児）
- (5)小児医療・・・・・・・・一定の入院医療を提供

1 現状と課題

【自施設の現状と課題】

他機関との連携

- ・ 地域医療支援病院としての連携

- ①地域の医療機関と連携し、紹介患者に対する医療提供

- ②医療機器等の共同利用、③地域の医療従事者に対する研修、④救急医療の提供

- ※救急医療の提供においては、芦北医療圏の救急告示病院として、同じく救急告示病院の指定を受けている岡部病院と連携し、二次救急を主とした医療を提供。その中で対応が難しい重篤な状態である場合は、より高度な医療機能を有する三次救急医療機関との連携を図っている。

- ・ 地域の医療機関との連携

- 「くまもとメディカルネットワーク」を活用したオンラインでの情報共有

- ・ 第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症対応においては、重点医療機関として入院医療の提供をはじめ、地域の医療機関への情報発信等による連携

- ・ 水俣市芦北郡医師会を中心とした地域在宅医療サポートセンターの一施設として、同じく指定されている他の10医療機関との連携

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

医療提供について

引き続き地域の医療機関と連携し、急性期医療を中心とした医療提供を行っていきます。

地域包括ケアシステムの一員としての役割について

在宅療養後方支援病院の役割遂行及び促進、地域医療支援病院としてかかりつけ医との連携・開放型病床・医療機器共同使用の利用促進、レスパイト入院の利用促進、ICTを活用したオンラインによる連携診療等の在宅療養支援を引き続き行っていきます。

地域ケア会議・水俣芦北在宅ネットワーク会議等に参加することで常に地域の医療・介護の情報を得ていきたいと考えています。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

デジタル化への対応について

連携の中で「くまもとメディカルネットワーク」をはじめ、医療コミュニケーションツール等ICTの活用により、オンラインでの情報共有、連携を促進し、医療・介護の質の維持、向上に向けた取り組みを推進します。

新興感染症等の感染拡大時における医療について

当センターは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時においては、重点医療機関として、病床を確保し、入院医療を提供してきました。

今後の新興感染症等の感染拡大時には4床を基本に、地域の医療機関と連携を図りながら、中核病院として役割を果たしていきたいと考えています。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

地域医療支援病院の新たな責務にかかる現在の取り組みについて

ア) 医師の少ない地域を支援すること。

県や大学から支援をいただき、当院附属の久木野診療所への診療派遣や、地域の医療機関に対する宿日直業務派遣を行っています。

イ) 近接している医療機関と競合している場合は、地域医療構想調整会議における協議に基づき、医療需要に応じ、必要な医療に重点化した医療を提供すること。

※該当しないものと考えています。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

地域医療支援病院の新たな責務にかかる現在の取り組みについて

- ウ) 平常時からの準備も含め、新興感染症等がまん延し、又はそのおそれがある状況において感染症医療の提供を行うこと。

新興感染症を想定した訓練の実施

院内の感染対策、防護服の備蓄等、入院医療の提供も備えた整備

- エ) 平常時からの準備も含め、災害時に医療を提供すること。

地域災害拠点病院及びDMAT指定医療機関として機能維持
及び強化

大規模災害を想定した訓練実施

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	10	10	
急性期	252	196	
回復期	95	95	
慢性期	0	0	
その他	0	0	
合計	357	301	

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (5年6月末時点)	2025年	理由・方策
維持	呼吸器内科、神経内科、 循環器内科、心臓血管 外科、代謝内科、小児科、 外科、整形外科、脳神経 外科、産婦人科、皮膚科、 泌尿器科、腎臓内科、眼 科、耳鼻いんこう科、放 射線科、麻酔科、リハビ リテーション科、消化器 内科、歯科口腔外科 全20診療科	現状維持	非常勤のみによる診療 科（心臓血管外科、腎 臓内科、耳鼻いんこう 科、眼科、リハビリ テーション科）もある が、総合病院として現 状を維持していく。
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(R5年6月時点)	2025年
①病床稼働率	62.2%	81.0% (R7の目標値)
②紹介率	65.2%	60.0% (R7の目標値)
③逆紹介率	157.6%	120.0% (R7の目標値)

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

病床稼働率、紹介率、逆紹介率

(取組み)

I C Tを活用した地域医療情報ネットワーク「くまもとメディカルネットワーク」や当院の行動指針としてきた医療圏を越えた医療連携を更に推進する。

紹介、逆紹介による地域の医療機関との連携

病床機能分化の推進により病床稼働率の向上を図る。

(課題)

人口減少

「くまもとメディカルネットワーク」の更なる利用促進

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

医療従事者の確保に向けた取組み

(取組み)

宿日直許可の取得
医師確保対策

職場体験や実習を積極的な受け入れ

職種：医師、看護師、薬剤師、栄養士、セラピスト（リハビリ職）
社会福祉士など

奨学金の支援による看護師及び薬剤師の確保

(課題)

人口減少による応募者数の減少

4 その他特記事項

【お伝えしたいこと】

- 第8次熊本県保健医療計画において求められている機能充実に努め、安全で安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。
- 限られた医療資源を競合することなく、各機関と連携を密にし、地域包括ケアシステムの構築に貢献します。
- 地域医療構想調整会議の協議結果と当センターの改革プランとの間に齟齬が生じないように努めます。